

国立大学法人 長岡技術科学大学

平成24年度第1回(第48回) 経営協議会議事要旨

日 時 平成24年4月27日(金) 14時30分～15時55分
場 所 長岡技術科学大学 マルチメディアシステムセンター 会議室
出席者 新原議長、東委員、江口委員、岡田委員、木谷委員、神野委員、相岡委員、宮下委員、
山崎委員、武藤委員、高田委員、宮崎委員、三上委員、中出委員、斎藤委員
(議事の表決の委任による出席者：池田委員、森委員)
陪席者 平山監事、滝上監事、小松附属図書館長(高橋長岡市商工部長、原田客員教授)
事務局 総務部長、企画・広報室長、総務課長、財務課長、財務課副課長、財務課予算係長、
総務課総務係係長、総務係主任 以上 28名

議事に先立ち、議長から、経営協議会についての説明及び各委員等の紹介があり、新任委員である岡田委員、相岡委員、中出副学長、滝上監事から挨拶があった。

続いて、第45回議事要旨(案)及び持ち回り開催の第46回議事要旨(案)、第47回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 学長選考会議構成員の選出について

新原議長から学長選考会議構成員の選出に関して、議事進行を武藤委員に交替し、議場を退室する旨の発言があり、これを承認した。引き続き武藤議長代行から、学長選考会議規則に基づき、資料1のとおり経営協議会から4名を選出願いたい旨の提案があり、審議の結果、東実委員、神野清勝委員、山崎彬委員、岡田清委員を選出した。審議終了後、新原議長が入室し、武藤議長代行から審議結果が報告された。

2. 職員就業規則関連規程の一部改正について

宮崎委員から、資料2に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 産学融合特任准教授というのは通常の准教授とどこが違うのか。
- 産学融合トップランナー発掘・養成システム事業として5年の任期であることや、スタートアップ経費、研究費の優遇、研究以外の業務の負担軽減等特典を設けている。

なお、当該補助事業は昨年度終了しているが、今後も定着事業として継続することとしている。

3. 平成25年度概算要求事項について

宮崎委員から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 新潟の「地域適合型再生可能エネルギー」というのは、具体的にどういったものをイメージしているのか。全国展開となると、新潟と全国をどのように繋げていくのか。「技学に基づく地産世消型」についても、具体的にどういったものか。

- 再生エネルギーのメインとしては太陽エネルギーと風力関係の2つが考えられるが、新潟県における地域適合型モデルケースのシステムを構築し、新潟特有の天然ガスとバイオマスエネルギーも含め、全国展開では各地域のさまざまな情報を持っている高専を經由し、全国各地の状況に適合した再生エネルギーシステムに応用する。
- 地産世消型に関しては、地域のことは十分頭に入れた形で、地域から出て、世界をターゲットにするような形に展開すべきという意味でこういう新しい言葉をつくった。
- 25年度までの継続事業については、25年度で成果が出るという目算があり、さらにこれを継続してより実用化ができるような形にしていくことが必要ではないか。
- おっしゃるとおり。プロジェクトの期限までにそのような成果を出すことが義務だと思っている。
- 能動的実践教育への変革とは、方向としてより能動的な方向に向いていくべきことだとは思いますが、具体的な構想は既にできているのか。
- 狙いは、企業との共同研究等の中で実務を学んだ学生たちに学生自らが主体となって企業の新しい展開を考えていくような次のステップを経験させる教育の場を提供すること。一般の大学の場合では、なかなか難しいけれども高専等から技術を学んだ学生が入学し、更に修士課程まで高度の教育をする学生であれば他の大学と差別化するために、そこまで育てていく必要があると思っている。

報告事項

1. 中期計画の変更の認可について

武藤委員より、資料4に基づき、報告があった。

2. 資金運用実績について

宮崎委員より、資料5に基づき、報告があった。

主な質疑応答は、以下のとおり

- いま金利は非常に低いため、長期の運用をしないと利率が回ってこないが、そういう運用はされないのか。
- 本来であれば10年物が考えられるが、昨今の予算状況、また、運転資金の確保が必要となる状況も考慮し、現状の範囲内での運用と、5年物と2年物とで運用を行っている。

3. 平成24年度経営協議会開催日程について

議長より、資料6に基づき、報告があった。

以上